

平成29年度 東京都立南平高等学校 学校経営報告

校長 吉田 寿美

平成28年度から平成29年度にかけて、西武学校経営支援センター特別指定校として、「教科主任会を中心とした組織的な学力向上と進学実績の向上」を目標に掲げ、①自主学習時間の定着、②センター試験受験科目75%以上の得点者の2点を目標とし取り組んできた。さらに29年度は、東京都教育委員会「アクティブ・ラーニング推進校」として、「頭、心、(実技では体も)50分間生き生きと活動する授業の実践」を目指し、学校全体での授業力向上を目指した。

本校の生徒・保護者は、①本校の自主自律の精神、②充実した学校生活、③希望の進路実現を、本校の選択理由として挙げている。よって、28年度も掲げた「勉強も 部活動も 学校行事も」を引き続き学校全体での合言葉にし、本校の教育活動を推進してきた。

29年度も28年度と同様に、東京都西部学校経営支援センター特別指定校の予算の一部を外部コンサルティングによる「学校評価アンケート」にあて、専門家による28年度から29年度にかけての本校の経営状況分析と本校の課題の指摘をいただき、今後の学校改善に役立てることにした。

平成29年度の取組状況と自己評価について、以下のとおり報告する。

目指す学校像

『高い志を抱き、真摯に取り組み 進路を切り開く』

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

1) 学力向上「わかるからできるへ、授業の質の保証」

- ①28年度入学生から新教育課程となって2年目である。2学年で、古典、数学Bの全員履修が始まった。全員履修に向けて、国語科、数学科は、濃やかな気配りをしながら指導している。学校評価アンケートでは、生徒の教育課程への満足度が、2学年が一番高いという結果が出ている。
- ②各教職員は、センター試験75%得点率を目指し、教科主任会に基づく教科会での連絡・調整・研修、校内外の授業参観、予備校研修、他県の高校・大学への視察、「生徒による授業評価」を活用し、授業、授業外の補習・講習を行っている。今後も、①生徒自身が主体的に学び続ける50分間の授業、②授業外の自主学習につながる授業を目指し、校内での教科主任会を軸とした研修体制を強化する。
- ③体力テストの結果は、学年差が出た。上級学年になるほど結果が良いのは、体育の授業でのコーディネイトレーニング、坂のある本校の敷地を生かしたトレーニング、活発な運動部の活動を基軸に、体力づくりを推進している背景があると推測される。読書については、課題図書の見直し指導もあり、未読率は0%である。
- ④年2回実施する「生徒による授業評価」では、7月・12月ともに、学校全体では、肯定的評価が83%前後であり、28年度の7月、特に12月の結果より肯定的評価が大きく向上している。管理職による授業観察でも、28年度よりも、学校全体として授業の工夫・改善が進んでいることを実感しており、結果として数値に表れている。しかし、更なる授業の工夫・改善の努力が求められる授業もあり、今後とも、学校全体で、生徒主体の、生徒自身が力が付いていると実感できる授業を目指していく。
- ⑤「学校評価アンケート」からは、授業を通じた学力の向上や自分の成長を実感させ、未来の展望を抱かせるためには、「授業や教材の工夫改善」「学習時間の確保」「南平スタンダード」を一体のものとした改善策が必要であるとの結果が出ている。

⑥大変重要な項目と考えられる「充実した学校生活」との高相関項目は、「良好な人間関係」「学業と部活動の両立」「定期考査に臨む意欲」「学力向上への努力」「施設・設備、学習環境」となった。しかし、「学業と部活動の両立」「定期考査に臨む意欲」では好結果が出ていない。早急に対応していくことが、生徒の学校生活への充実感にもつながる。

⑦東京都西部学校経営支援センター特別指定校の指標の一つである自主学習時間は、学年度末（2月）の調査で、1年生73.4分、2年生114.1分である。生徒自身が、南平高校の求める学習レベルを意識し、小テスト、定期考査、模擬試験を定点観測の場とし、時間を有効に活用し常に一定時間、効果的な自主学習を進められるよう、学校として、授業・授業外で働きかけを行う。

2)進路指導「高い志に向けてチャレンジさせる指導」

①28年度から、「3年間を見通した進路指導計画」に基づき、進路指導を進めている。進路データの蓄積、進路通信の発行、進学指導校内研修、進路ガイダンス、保護者会、三者面談指導、放課後・休日の教室を中心とした自主学習支援など、進路指導部と各学年が連携し、生徒の希望進路実現に向けた指導を行った。29年度は、自習室も開設し、生徒が自主学習しやすい環境を増やした。また新たな試みとして、学校運営連絡協議会委員と連携した「大学説明会」、NPO法人と連携した「大学模擬授業」、進路適性テスト、志望理由書作成などを採り入れ、昨年度学校評価アンケートで課題となった進路希望を作る機能の強化を図った。

②長期休業期間を中心に多くの補習・講習が開かれ、多くの生徒が受講した。冬季休業中に実施した2年生のウィンター・セミナーでは、参加生徒が本校卒業生に相談しやすいように工夫した。

③28年度から全教職員に模擬試験結果を活用するソフトを導入し、全教職員が生徒の状況を即時に把握し、共有データの分析、分析会の充実を図っている。

④「学校評価アンケート」では、生徒の「進路指導の成果」では肯定的評価が増えているのに対して、保護者はそれほどでもない。学校の取組を保護者に理解してもらうよう努める必要がある。「進路意識の高まり」は、1・3学年が昨年度を下回り、2学年は良好な結果となっている。

⑤3学年の進路実績である。東京都西部学校経営支援センター特別指定校の指標の一つであるセンター試験受験科目75%以上の得点者は15%であり、国公立・難関私立大学の合格実績は、一般入試定員厳格化の影響を受けた結果となった。特に、私大学文系の一般入試では、一段とレベルの高い受験になっており、早目の基礎力の完成が鍵になる。

3)生活指導心・知・体を磨く「学校生活全般に渡って、濃やかな指導」

①「学校評価アンケート」では、「良好な人間関係」「充実した高校生活」「高校生に相応しい行動」「生徒指導の方針」の項目で、生徒・保護者から高い評価を得ている。

②個々の生徒の能力・個性を發揮する場である、運動部・文化部ともに活発な活動を続けている。都大会3回戦進出レベルまで達した部活動も多い。

③様々な状況を抱えて個別に支援が必要な生徒に対しては、教職員の共通理解を図りながら、必要な時には病院や特別支援学校等と連携し、生徒・保護者の気持ちに寄り添い指導を行った。特別支援学校との連携、SC及び大学講師による校内研修会の開催により、「合理的配慮」への校内の共通理解を深めた。

④環境整備については、引き続き生徒に公共の場である学校を気持ち良く使う意識をもたせ、美化清掃活動を進めていく。またクラス割当での美化清掃指導はもちろん、部活動の輪番による清掃場所である更衣室をはじめ、グラウンド等、部活動による美化清掃活動にも重点を置いて指導する。

⑤自動車教習所による交通安全教室、ジャーナリストによるSNS安全利用教室、警察署による薬物乱用防止教室と、生徒の健全育成を目指したセーフティ教室を実施

した。自転車通学マナーへの苦情は減ったが、生徒が自転車による加害者・被害者になる恐れがある。引き続き指導を続けていく。遅刻者数は、28年度に比べて1・2学年で減少したが、3学年で増えてしまった。

4) 信頼され、開かれた学校「生徒・保護者・地域の意見の反映」

- ① 1学年の「人間と社会」での地域と連携した体験活動、生徒会や部活動における地域の小・中学生との交流やボランティア活動、公開講座や施設開放事業等、地域との連携活動を行い、関係者から喜ばれている。
- ② 多くの関係機関と連携した防災教育では、生徒自身が自助・共助・公助の意味を理解するだけでなく、実践者になることを目指した。火事のみならず様々な災害を想定し避難する避難訓練を4回行った。3月には、大学ボランティアセンター長による講演で、「防災マインド」について学ぶ場を設定した。
- ③ 29年度から、オリンピック・パラリンピック教育に関する委員会を立ち上げ、各教科でオリンピック・パラリンピック教育を推進している。3月には、日本を代表する自転車競技3選手を講師に迎え「オリンピック・パラリンピック講演会」を実施し、生徒にオリンピック・パラリンピックの魅力、自転車競技の魅力、挑戦する大切さを伝えた。
- ④ 29年度も、東京都西部学校経営支援センター特別指定校に指定された予算の一部を、外部コンサルティングによる学校評価アンケートにあて、質問設計、集計、分析を依頼した。迅速できめ細かい分析が可能となり、その結果、教職員が分析内容を検討し、課題・改善を考える時間をとることができた。拡大企画調整会議で、分析結果報告会も行い、今後の学校の課題を共有する場となった。
- ⑤ 29年度当初に、他校と同じウェブサイト形式にリニューアルした。タイムリーな更新も心掛け、年間の授業日数よりも多く更新し、まめに学校の情報発信を行ったつもりであったが、「学校評価アンケート」では、情報発信についての評価が、28年度よりも後退している。ウェブサイトで更新回数を増やしているのは部活動であった。今後は、日常の学校生活についての更新も増やす。
- ⑥ 28年度から、校内での長期休業中の学校見学、学校説明会、校外での学校説明会に、総務部を中心に多くの教職員が関わることにしている。校内での学校説明会では、本校生徒による学校説明及び部活動紹介が、生徒・保護者に好評であった。推薦入試、一般入試ともに、応募者は多かった。

(2) 重点目標への取組と自己評価(数値)

1) 学力向上

- ・「生徒による授業評価」肯定的評価→7月82.9%、12月83.1%
- ・1、2年生「外部模擬試験(年度末)」同一学年のデータ前年度超え→2年生達成
- ・読書未読率→0%
- ・全ての教科によるオリンピック・パラリンピック教育の実施→達成
- ・体力テスト→全国平均超え。
- ・センター試験得点」全国平均超えの科目→15科目中18科目
- ・「センター試験受験科目75%以上の得点者」→15%
- ・教科主任会・教科会→月1～2回実施

2) 進路実現

- ・長期休業中の補習・講習→65講座
- ・生徒の自主学習時間→1年生73.4分、2年生114.1分
- ・学校評価アンケート：進路指導満足度→生徒76%、保護者56%、教職員81%
- ・国公立大、難関私立大学(早慶上理GMARCH)現役延べ合格者数→135名

3) 心・知・体を磨く

- ・生徒遅刻数→1年→193回、2年→346回、3年→505回

- ・自転車交通事故→3件
 - ・学校評価アンケート：充実した学校生活（勉強・学校行事・部活動）→生徒87%、保護者87%、教職員93%
 - ・部活動加入率→88%
 - ・学校評価アンケート：学習と部活動の両立→生徒60%、保護者52%、教職員58%
 - ・都大会進出3回戦以上→10部
 - ・特別支援教育に関する委員会→11回
 - ・いじめ調査→3回
 - ・教育相談・個別支援教育研修会→2回
 - ・学校評価アンケート：環境整備による施設設備等の満足度→生徒80%、保護者72%、教職員57%
 - ・アレルギー対策委員会→1回
- 4) 信頼され、開かれた学校
- ・学校内外説明会参加者→3701人
 - ・学校見学者→2086人
 - ・ウェブサイト更新→346回
 - ・地域と連携したボランティア活動→42回
 - ・年1回
 - ・学校評価アンケート：防災教育満足度→生徒75%、保護者66%、教職員78%
 - ・入選倍率（最終応募状況） 推薦2.63倍 一般1.75倍